

第4回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年11月13日（水）
午後6時～7時30分

会場：諏訪市文化センター
2階 第2集会室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 会議事項

（1）第3回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

（2）学びのイメージに係る意見交換

テーマ 「新しい学校が目指す姿」

① 産業界、高等教育機関からの提言

諏訪商工会議所副会頭 白鳥 和美 様

公立諏訪東京理科大学教授 市川 純章 様

② 質疑応答

③ 意見交換（グループワーク）

④ グループからの発表

（3）懇話会の運営について

4 その他

次回の予定

【日時】令和7年1月21日（火）

午後5時30分～7時 （予定）

【場所】諏訪湖ハイツ コンベンションホール

【内容】「学びのイメージ」に係る意見交換

5 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関すること
- （2）校地・施設・設備等に関すること
- （3）管理運営等に関すること
- （4）教育内容等に関すること
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会構成員名簿

(敬称略)

	区分	氏名（○：座長）	所属等	役職等	グループ
1	自治体	藤澤 正	岡谷市	副市長	B
2		後藤 慎二	諏訪市	副市長	C
3		宮坂 享	岡谷市教育委員会	教育長	D
4		三輪 晋一	諏訪市教育委員会	教育長	A
5		松崎 泉	下諏訪町教育委員会	教育長	E
6	産業界	木下 敏彦	岡谷商工会議所	副会頭	欠
7		白鳥 和美	諏訪商工会議所	副会頭	B
8	学識経験者	○市川 純章	公立諏訪東京理科大学	地域連携総合センター長	
9	地域	窪田 美彦	セイコーエプソン株式会社 人的資本・健康経営本部	本社総務部長	欠
10		高林 千幸	岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）	館長	A
11		竹花 顕宏	諏訪地域振興局	局長	D
12	同窓会	小松 壮	（一社）岡谷工業高等学校同窓会	理事長	E
13		増澤 義治	諏訪実業高等学校同窓会	会長	D
14	P T A	佐藤 亨	岡谷工業高等学校 P T A	P T A 会長	B
15		芳澤 秀樹	諏訪実業高等学校 P T A	P T A 会長	A
16		笠原 康弘	岡谷市 P T A 連合会 代表	会長	C
17		竹野入将宏	諏訪市 P T A 連合会 代表	会長	D
18	小中学校等 関係者	櫻井 洋	諏訪小学校長会 代表	長地小学校長	C
19		河手 正彦	諏訪中学校長会 代表	諏訪中学校長	E
20		高坂慎太郎	諏訪養護学校	教頭	欠
21	再編対象校	武田 怜也	岡谷工業高等学校	生徒会長	D
22		牛丸 瑤介	岡谷工業高等学校	生徒会副会長	A
23		弓削 俊宏	岡谷工業高等学校	校長	C
24		清水 哲	岡谷工業高等学校	教職員	E
25		小林 愛友	諏訪実業高等学校	商業科代表	E
26		盛 咲穂	諏訪実業高等学校	服飾科代表	C
27		加藤 泰久	諏訪実業高等学校	校長	A
28		松下 明世	諏訪実業高等学校	教職員	B

【事務局】

学校名	氏 名（役職等）
岡谷工業高等学校	（教頭）飯島健二
	（教諭）御子柴 久雄、原 克明、山口 隆、飯島 昭雄
諏訪実業高等学校	（教頭）楯 和弘（教頭）、（定時制教頭）三間 美奈子
	（教諭）服田 洋介、松下明世、小川 淳子、

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	井出 敦	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	宮嶋 直美	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	山崎 巖	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

第3回 岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和6年8月30日（金）18時00分～19時30分		
場 所	諏訪湖ハイツ　コンベンションホール		
出 席 （敬称略）	後藤慎二、宮坂享、三輪晋一、松崎泉、木下敏彦、◎市川純章、高林千幸、小松壮、大久保一、佐藤亨、芳澤秀樹、笠原康弘、河手正彦、高坂慎太郎、武田怜也、牛丸瑠介、弓削俊宏、清水哲、小林愛友、盛咲穂、加藤泰久、松下明世 以上 22 名		
欠 席 （敬称略）	藤澤正、白鳥和美、窪田美彦、竹花顕宏、竹野入将宏、櫻井洋増澤義治 以上 7 名	傍聴者	6名（オンライン3名含む） 報道関係3社
事務局	岡谷工業高校	飯島教頭、御子柴教諭、原教諭、山口教諭、飯島教諭	
	諏訪実業高校	楯教頭（全日制）、三間教頭（定時制）、服田教諭、有賀教諭	
当日資料	第3回懇話会資料、講演資料、座席表・アンケート用紙		

会議事項

- (1) 第2回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめについて
- (2) 講演「これからの高校を考える」講師：鳴門教育大学大学院学校教育研究科 特命教授 藤村裕一氏
- (3) 質疑応答・意見交換

講演会概要・質疑応答(要旨)

- (1) 第2回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ (⇒ 意見なし 承認)
- (2) 講演「これからの高校を考える」講師：鳴門教育大学大学院学校教育研究科 特命教授 藤村裕一氏

【概要】

○先進的な全国5校の特色ある取組事例の紹介

- ・宮崎県立小林秀峰高校…大人の遊び心で子どもを育てる/社会に通用するリアルプロジェクトと学科間連携
- ・名古屋市立西陵高校…固定概念にとらわれず、生徒主体の教育
- ・岡山県立倉敷鷺羽高校…ジレンマ克服型実習が不確実な社会を生き抜く力に
- ・札幌市立札幌丘高校/広島県立広島智高高校…「生徒が中心」の教育がこれからの社会をつくる力に

○人材像の変化を理解することから高校改革は始まる

- ・変化が激しく予測困難なVUCA World(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)を生きぬく人材の育成(問題発見・解決力の育成)

○学力の変化 21世紀型能力

- ・基礎力：情報スキル ・思考力：問題発見・解決力、創造力、批判的思考力 ・実践力：自律活動能力

○失敗事例に見られた失敗の5つのポイント

- ・各校の伝統にこだわり死守しようとするノスタルジックな発想
- ・最後まで譲らず、創造的に考えて納得解を生もうとしない狭い各地域のエゴ、各学校のエゴ
- ・生徒のことを二の次にし、教職員・地域の大人の都合を優先すること
- ・共感が得られる優れたコンセプトを生み出せず議会、財政部局、地域住民を味方につけられないこと
- ・少子化でやむを得ない学校統合を理由にすること

- (3) 質疑応答・意見交換 (⇒回答：藤村教授)

【質問】

○先生の話聞いて同窓会や自治体などが一丸となって進めていく必要性がわかった。そこで、生徒たちをどのように組み込んでいくのか、事例があればお聞きしたい。

→長野県の他の懇話会のグループワークで、生徒から良い意見が出た。この懇話会でも生徒に意見を聞いてみてはどうか。

- ・諏訪実業生徒：何年後かの再編するとき自分は高校生ではないので、本当に今の私たちに意見が反映されるか心配だったが、この会でいろいろな大人と話して、生徒の声も聞いてくれるので今は安心してている。
- ・諏訪実業生徒：私も授業で商品開発しているが、お話のあった学校のように自由にはやらせてもらえていない。統合後は、服飾科や岡谷工業さんと一緒に最後まで考えて何かを作りたい。
- ・岡谷工業生徒：自分も他の学科のことを学びたいと思ったことがあり、3年間同じ分野を勉強するのではなく、本当にやりたいことをやらせた方が将来のためになると思う。
- ・岡谷工業生徒：岡工と諏訪実が統合すると聞いたとき、本当に実現できるかと思っていたが、この会議でみなさん真剣に考えたり話し合いをしてくれているので、いい学校を作ってくれと期待している。

→大人へのエールをもらった。子どもたちのためならと、利害が対立するような大人たちも協力するということが大事だ。

○特徴ある学校を作りたいがそれが一番難しい。特徴づくりに対する入口、考え方があったらアドバイスが欲しい。

→自分の学校の強みと弱みの分析をして、弱みを逆転の発想でプラスにかえてしまうのはどうか。徳島にそのような例がある。この地域に初めて降り立ったが、この景色は感動する。観光、工業製品などいろいろなことが考えられるし、岡谷と諏訪は天気はかなり違う。その多様性も感じた。他の真似ではなく、大人も子どもも力を合わせてクリエイティブに考えアイデアを生み出すことが大事。

○新校は岡谷諏訪といっても、諏訪地域6市町村の広範囲から生徒が通うことになる。そういう中で県立高校を設置していくに当たって、市町村はどういう関わりをしていけばよいのか教えてほしい。

→高校の再編統合には、市町村は応援団になるか敵になるかはっきりわかれてしまう。自治体に高校があることを求めるか、自分たちの子どもたちが幸せになることを求めるか。具体的に、中学校に高校から生徒や先生が紹介に行く。小林市や日南市は幼稚園・小学校・中学校に高校生が行き、連携して授業をやっている。小・中は市町村が基本で、ギブアンドテイクで良い関係を作って、あの高校に行きたいと思わせるようなことをすると、遠いところに行かずに地元で幸せになる方法につながる。また、先ほどのオリジナリティという点では、地元の教育委員会が一番詳しいはずなので、力添えいただけるとよい。

○大学生でも特に将来の明確な目標なく入学する学生がいる。商業、工業という専門性の高い高校では、動機がはっきりしなくて入学してしまうかもしれない。動機付け教育が非常に必要になるのではないかな。また、専門高校だと就職のイメージで進学はできないのではないかなと思われている。専門教育として、基本的に就職を意識しているが、必ずしも実態はそうでない。先生の関わった先進的なところでは進路はどうだったのか。

→子供のころの夢から現実の壁にぶつかったとき、夢がもてるような教育をしているかが問題だ。鎌倉市では自分学という授業をやり徹底的に自分を振り返る。AIなど使い分析してもらおう。そのやりとりの中で、やはり何になりたいという夢を中学段階で持てるようにしている。また、宮崎の高校では、不本意入学の生徒に工業人材に憧れを持たせる授業をやっている。多方面の技術を知り、その仕事に就くために就職しても大学進学してもよいように支援してあげる。専門高校は、就職のイメージだが、田舎でも都心の進学校の授業リモートを受け入れるというような全力で支援を工夫することが必要だ。

【座長まとめ】

- ・本日の議論を次回につなげていく。
- ・懇話会の様子をそれぞれの構成員の皆さんの所属に持ち帰り、共有をお願いしたい。

その他

【次回】

- ・日時：令和6年10月（予定）18時～19時30分
- ・会場：未定

「学びのイメージ」 検討手順

学びのイメージ

新しい学校の形

新しい学校の中身

新しい学校が目指す姿

- ・ 設置課程、学科
- ・ 活用する校地、
- ・ 学びを実現するための施設
- ・ 想定する募集学級数 等

学びの柱

- ・ どんなことができる学校にしたいか
- ・ 特色あるカリキュラム
- ・ 魅力づくり

- ・ 育てたい生徒像
- ・ 目指す学校像

- ・ 懇話会趣旨説明（第1回）
- ・ 2校の学び紹介（第2回）
- ・ 全国の先行事例（第3回）

共通理解



須坂新校（仮称）再編実施基本計画

1 再編統合対象校

須坂東高等学校、須坂創成高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和 11 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 11 年度を新校の募集開始年度とする。

3 活用する校地・校舎

須坂創成高等学校

「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、専門科と新たな普通科（仮称：みらいデザイン科）の連携を実現していくために、須坂創成高等学校の施設・設備を活用する。

部活動など生徒の自主的活動のため、引き続き旧須坂商業高等学校のグラウンドや体育館等の施設を活用する。

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 農業科・工業科・商業科・みらいデザイン科（仮称）

4 学科あわせて 7 学級程度を想定

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

みらいデザイン科（仮称）は、高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化（高等学校設置基準及び高等学校学習指導要領の一部改正）により設置可能となった「新たな普通科」の 1 つである、地域社会に関する学科^注として設置する。また単位制を導入し、他学科の授業も選択できる、個別最適な学びにふさわしい教育課程を編成する。

北信地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 7 学級程度が想定される。

注）現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために現在および将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科。

5 学びのイメージ

別紙のとおり

地域をフィールドとした探究を学びの中心に据え、「実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校」を構想する。

6 施設整備

新校の学びに必要な施設及び、地域連携の実現のため必要な機能の整備を図る。

・施設整備に要する期間 6 年程度を想定

実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校

生徒像
育てたい

- 探究的な学びにより身に付けた力で自分の未来を積極的にデザインできる生徒
- 他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒
- 多様な他者とつながり、新しい価値を生み出し、よりよい社会実現のために学び続ける生徒

学校像
目指す

- 地域をフィールドとした探究的な学びをととして、課題発見解決能力を育む
- 学科や学年を超えた協働的な学びをととして、キャリアデザイン力を育む
- 地域とともに学び、主体的に地域の未来を創造する力を育む

地域の未来を、地域の方々と共に創る コミュニティデザインハイスクール

農業科

工業科

商業科

みらいデザイン科 (仮称)
※新たな普通科

4 学科の連携で地域の未来づくりに参画

専門科の学びで得た農業・工業・商業・デジタルなどの視点

みらいデザイン科の探究活動で得た芸術・歴史・福祉・国際などの視点

学びの柱

- ◆ 実体験をととして、自分と地域の未来を創造する学びを展開
- ◆ 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施
- ◆ 情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、ICT を積極的に利活用

具体的な取組

- 校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、海外留学など）
- 全学科でのデュアルシステム（校外での実践的な学び）
- 世代を超えた交流学习（中学校との合同探究発表会、地域への公開講座など）
- 生徒自らが学校を創造していく自主的活動（生徒会活動と部活動）
- 探究の学びを深化させる「地域連携コーディネーター」が校内に常駐
- 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

単位制

学科の枠を超え、他科の専門科目も履修して自身の学びを深化
学校を飛び出してのアクティブな探究活動を学びの中心に
コミュニティデザインを研究する国内外の大学との連携
地域を学ぶ国内外の高校生と交流

連携

地域の方々との共同研究

須高地域共学共創コンソーシアム

新校が生涯学習の拠点

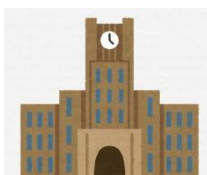
大学・専門学校

医療・福祉機関

地元企業・商工会

自治体

研究機関



第4回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会

意見交換

テーマ 「新しい学校が目指す姿」

- こんな生徒を育てたい・高校でこんな力をつけたい
- 目指したい学校像

その実現のために、生徒がどんなことができる高校にしたいか
(～こんな学びをしてみたい、こんな学びがあったらいいな～)

I 産業界、高等教育機関からの提言

諏訪商工会議所副会頭 白鳥 和美 様
公立諏訪東京理科大学教授 市川 純章 様

産業界、高等教育機関の立場から、これからの時代に育てたい力や、目指したい学校の姿、それらを実現するための学びの提言をいただき「新しい学校が目指す姿」や「新しい学校の中身」の話し合いのヒントとする。

(第5回予定 岡谷商工会議所 木下様、セイコーエプソン株式会社 窪田様)

II 質疑応答

III 意見交換(グループワーク)

＊全員の方が発言することができるようにご協力をお願いします。

IV グループからの発表

参考資料
第3回懇話会まとめ
第2回グループワークで出された意見
これまでに出了れた意見一覧

第4回懇話会資料

第2回岡谷諏訪総合技術科新校再編実施計画懇話会グループワークで出された意見（一覧）

順不同

① それぞれの高校の良いところ

懇話会で出された意見	概 要	
・専門分野を学び、実質的な資格が取れる ・両校とも高い専門性があり生徒が具体的な目標を持てる（岡工） ・服飾科は県下唯一で岡谷シルクの文化を伝承している（諏訪実） ・国家資格が取得できる（岡工） ・長野県唯一の服飾科がある（諏訪実） ・5科それぞれに特色があり、伝統と今の技術をとことん深めている（岡工）	専門性	高い専門性 資格 伝統と今の技術 服飾科
・諏訪実は地域や企業とのコラボ、岡工は諏訪地域の製造業の一翼を担っている ・地域の人々とともに学び、地域に出て活動することができる（諏訪実） ・諏実タウンやキッズビジネスなど地域を取り込んでいる（諏訪実） ・両校とも教室内の学びだけでなく、地域社会とのつながりの中での学びがある ・地域企業とふれあい、交われる（岡工） ・地域とつながり、外に発信していくところ（諏訪実） ・ものづくりに関して地域連携ができている（岡工） ・実践的な学びに取り組んでいる（岡工） ・商品開発から販売を通じ社会とのつながりがうまれる（諏訪実）	地域との つながり	地域や企業とのコラボ ものづくりに関して地域連携 商品開発から販売までおこない社会とつながりがある 産業界とのつながり 製造業の一翼 地域を取り込んでいる 地域に出て活動 /実践的な学び 校外に発信
・部活動が活発（岡工） ・岡工はスポーツのクラブが強い	クラブ	部活動が活発（岡工）
・地域に根差した、地域に求められる人材の輩出が強い（岡工） ・産業界とのつながりが強く、地域の技術を担う人材を育成している（岡工）	人材輩出	地域に求められる人材の輩出 地域の技術を担う人材
・定時制では中学までに学びのリズムを崩した人も学び直しができる（諏訪実） ・定時制を有し社会問題に取り組んでいる（諏訪実）	定時制 学び直し	定時制 学び直し
・やりたいことが明確な生徒が多い	目的意識	やりたいことが明確

② 両校が一緒になることによってどのように変わっていくことを期待するか

懇話会で出された意見	概 要	
・専門科が特化された学びと専門性を融合した学びの両立 ・起業家を育てる学び ・商業と工業の枠を超えた業種の分野を新たに作り出す ・岡工のものづくりと諏訪実の商売がコラボして、諏訪の商売につなげる総合ビジネススクール ・新しい商品を作るモデルになる学校にしたい	学びの 融合連携	専門科が特化された学びと専門性を融合した学びの両立 両校の融合 連携した学び 効率化や新たな学び 商業と工業の枠を超えた業種の分野を新たに作り出す
・製造・販売が学校一つで成り立ち、完成できる ・商品の企画を諏訪実が、製造を岡工が、売り方や営業を諏訪実が行う ・諏訪実の簿記や服飾デザインと岡工のコンピュータを組み合わせ、効率化や新たな学び ・機織り機で布を作り、服飾科が製品化し、商業科で販売するというような連携した学び ・情報技術の学習で服飾科のデザインを商品化したり、シルクを環境化学科の学習に生かすなど両校の融合 ・ファッションショーの照明を岡工がプログラミングする		起業家を育てる学び 総合ビジネススクール ワーキングスペースとして、新しい商品を作るモデルになる学校
	具体的アイディア	製造・販売が学校一つで成り立ち、完成できる 商品の企画を諏訪実が製造を岡工が、売り方や営業を諏訪実が行う 諏訪実の簿記や服飾デザインと岡工のコンピュータを組み合わせた新たな学び 機織り機で布を作り、服飾科が製品化し、商業科で販売するというような連携した学び 情報技術の学習で服飾科のデザインを商品化したり、シルクを環境化学科の学習に生かすなど両校の融合 ファッションショーの照明を岡工がプログラミングする
・授業のコラボレーション、生徒会で一緒に何か	今できる こと	授業のコラボレーション 生徒会で一緒に何かを行う
・大学と連携し単位取得 ・繊維×ものづくりイベントを通じた社会との連携 ・定時制など時間や場所を限定しない多様な学び	学び方 連携	大学と連携し単位取得 繊維×ものづくりイベントを通じた社会との連携 定時制など時間や場所を限定しない多様な学び
・男女のバランスが良い学校 ・男女間の交流 ・地域を愛する人の育成	キャンパス スライフ	男女のバランスが良い学校 男女間の交流 地域を愛する人の育成

第 4 回懇話会資料

岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会　これまでに出された意見（～3 回）

育てたい生徒像		目指す学校像	学び
「諏訪地域の高校の将来像を考える協議会」からいただいた意見・要望		・自分の目標や将来の進路実現に向かい、新たな学びである「探究的な学び」による主体的な学びによって自己の可能性を広げるとともに、専門性の学びを担保した専門学科は、将来の諏訪地域の産業界の担い手育成の重要な学びの場として設置していく必要がある ・これからの時代に対応できる I C T 分野に精通した新たな時代の産業界の担い手を育成する都市部存立専門学校 ・専門分野の学びを究めるとともに、他分野の学びが可能となる学科間連携が可能な総合技術高校の設置	・地域の精密機器分野をはじめとする伝統産業の継承はもとより、ICT 分野等新たな時代に対応する学びが必要である ・これからの産業構造を考えると、専門性を担保しつつ、他の専門分野についても学ぶことができ学科間での連携が可能な一定規模の総合的な専門学科高校の設置を視野に入れた学びの場の構築が考えられる
再編・整備計画【三次】	・学科の基礎的な専門性を身に付けるとともに、学科を横断した科目を学ぶことなどにより、これからの時代に必要な汎用的・多面的職業能力を育成 ・地域に根付いた精密機械産業や伝統産業に新たなイノベーションを興すことができる起業精神を育成	・デジタル系新学科を結節点として、工業・商業・家庭の学びを融合させ、地域社会や地域産業の新たな価値を生み出す産業人を育成	・工業科・商業科・家庭科・新学科（DX 等に対応するデジタル系学科） 【地域連携】 ・地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用
第1回懇話会	・旧 7 区の地域協議会では「地域社会や地域産業の新たな価値を生み出す産業人を育成」という意見が産業界から多く出た。諏訪の産業を担う若者を育てられる高校教育を実現してほしい	・高校時代は友達と夢を語り合い実現していく時期　時には悩み、それを乗り越える勇気や経験が人生を形成していく　複雑化・多様化する時代であるが、一人ひとりの生徒が誇りを持てる学校にしてもらいたい　また中学生からは「魅力的な高校が欲しい」「可能性を伸ばしてほしい」という意見があった　これからの議論は、今の高校に通っている生徒たち、新校に通うであろう子どもたちの声を聞いて進めて欲しい ・近隣の私立高校に負けない魅力ある学校をつくって欲しい ・一番大切なのは生徒達が魅力を感じて入学すること　生徒がやりたいことを実現できる学校にしたい ・時代は親が高校進学や就職について干渉する形から子どもの自主性を尊重する形に変化　子どもがどのような学校を目指したいと思うかが大事 ・大学進学と同時に、高校で専門技術を学んで就職することを特徴とした学校をつくってほしい	【地域連携】 ・地元大学としては、高校での学びをより深めたいという目的をもった生徒が進学してくれるよう願う
第 2 回懇話会	・地域を愛する人の育成	・岡工のものがづくりと諏訪実の商売がコラボして、諏訪の商売につなげる、総合ビジネススクール ・新しい商品を作るモデルになる学校にしたい ・男女間の交流　・男女のバランスが良い学校	・専門科が特化された学びと専門性を融合した学びの両立 ・起業家を育てる学び ・商業と工業の枠を超えた業種の分野を新たに作り出す ・製造・販売が学校一つで成り立ち、完成できる ・商品の企画を諏訪実が、製造を岡工が、売り方や営業を諏訪実が行う ・諏訪実の簿記や服飾デザインと岡工のコンピュータを組み合わせて、効率化や新たな学び ・機織り機で布を作り、服飾科が製品化し、商業科で販売するというような連携した学び ・情報技術の学習で服飾科のデザインを商品化したり、シルクを環境化学科の学習に生かすなど両校の融合 ・ファッションショーでの照明を岡工がプログラミングする ・大学と連携し単位取得 ・定時制など時間や場所を限定しない多様な学び ・繊維×ものづくりイベントを通じた社会との連携
第 3 回懇話会	講演会　これからの学校を考える		

第 4 回懇話会資料

再編実施計画懇話会運営等について（第2回事後アンケートより）

意見提言等		
開始 時間		参加する生徒に合わせた会場、電車の時間に合わせた時間を優先していただきたい。
会議 時間		グループワークは必要不可欠の場。コミュニケーションを深める場としても有意義である。一方時間が短かすぎた。やむを得ない時間配分だと思うが一考を望む。
		時間配分が難しく、出された意見の集約・発表が大変だった。
		もっと時間をかけて話し合いが必要と思った。
		1 時間半だと少し足りないかもしれない。
		時間がたりないですが、仕方ない。
		会議の進行（市川座長）がスムーズで的確である。時間通り終了したのが良い。
		発表時間が短いことと、発表者が時間内にまとめるようにする。
会場		会場について諏訪と岡谷を交互に選ぶことでもよいのかと思う。
		会場については、両校の校舎を使ってみてはどうか。
		可能なら両校での開催機会があってもいいのではないか。
連携	生徒	多くの生徒からの交流を通じた意見を集約し、統合に期待する意識を関係者と共有することがよいのではないか。
		この懇話会では生徒と共に考えることが必要である。
		懇話会の中で話があったように、様々な連携、交流はできることからどんどんやっていけたらいいと思いました。
	地域等	商工関係者など地域からの期待から考えることも必要か。
	先進 事例	総合技術高校の先進校を視察等で学びたい。
		世の中の先進事例もふまえ、総合技術新校としての理想像を勉強できればと思う。
	学校 見学	各校の学校見学をしたい。各学校で会議をされたらどうか。
その他		懇話会のゴールの時期（時間軸）を明確にしたほうが良いかと思う。スピード感が必要に感じる。
		あくまで前向きな進行でよいと思うが、心配事やマイナス面での意見を吸い上げる事も必要か。
		魅力ある定時制高校の存続について具体化できるとよい。